

妊娠・出産選択の自由について —約1/4が何らかの圧力を感じている—



自由： ただし自己責任の下に。

自分自身として取りにくい(周りに迷惑をかける)。

困惑： 実際の診療はかなり大変なことになる。

体制が破綻してしまう。

無言の圧力： 女医は妊娠したらいけないとの覚悟あり。

具体的圧力： 退職に追い込まれる。

新生児科医が不足する理由 ～過酷な勤務環境(2)～

- 過酷な勤務の結果、医療の安全性のみならず、健康に不安を感じている。
- 進路未定の研修世代を除く、すべての世代において、約2/3がいずれかの時点で離職を考慮。
- 離職を考慮する理由の大部分は体力的限界。